

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合		
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 「総合的な探究の時間」に、主体的に取り組んだと自己評価する生徒が70%以上いる。 ② 生徒の主体的な学習活動を促すため、授業で言語活動や学び合いを計画的に実施する教員が80%以上いる。	・生徒の興味・関心・能力に応じて自主的に取り組めるよう複数のコースを用意し、支援・助言を行う。 ・自己表現が苦手な生徒が多いので、教科毎に様々な工夫しを施して言語活動を取り入れ、授業アンケートによってその効果を検証する。	A	B	A	○各自のテーマが適切に判断しながら、探究活動ができるよう具体的な方法を指導した。次年度についても、生徒が更に主体的に探究を進められるよう、興味・関心を引き出す工夫を模索していく。	○多様な生徒への教育の中心に「総合的な探究の時間」を指していることに感銘を受けた。一人ひとりに寄り添い、受け止めた教育が、より実質的に行われている。他の教科や活動での言語活動への注力と相まって効果を挙げている。明らかに答えのない問いへの取り組みで、先生方の苦労も多いと思う。
	2 生徒にとって魅力ある学習環境が整備されていますか。	③ 自分の学校が好きだと感じている生徒が70%以上いる。	・授業や学校行事、部活動を活性化し、個々の生徒の実態に応じて、学校生活や進路などについてきめ細かに支援する。	A	B	A	○きめ細かな指導を行い、生徒一人ひとりに目が行き届くようにした。また、生徒が学年を超えてコミュニケーションを行えるよう、学校行事や部活動を支援した。今後も生徒個々の特性を理解した上で、一人ひとりが本校で学ぶことに安心感と充足感を持てるよう、様々な場面で支援をする。	○評価はおおむねよく、指導が充実しているように感じます。出席状況の項目に課題があるようですので、対策の検討が必要かと思いました。
	3 生徒の教育再生の場として、学習姿勢のあり方を指導するとともに、社会性を育んでいますか。	④ 継続して登校できるようになり、授業に前向きに取り組むようになったと認識している生徒が80%以上いる。	・不登校等で学習機会に恵まれなかった生徒に、登校しやすい環境づくりを心掛け、基礎学力や社会性を、4年間かけて養うことで、自ら考え、前向きに生きる姿勢を身につけさせる。	A	A	A	○登校しやすい環境、個に応じた指導を心がけた。また、教育相談体制を整えて、問題を抱えたときに、気軽に教員に相談しやすい環境を構築した。また、アンケートを実施し、問題の早期発見に努めた。今後も教育相談的な対応も重視しながら、居心地の良い環境を心掛けていく。	○引き続き登校しやすい環境を整えていただき、それぞれの事情がある中でもなるべく欠席することなく学校生活が送れるよう、支援を進めていただきたい。進路講演会等の開催により、社会とのつながりができ進路に関する意識も向上したと思いますので、引き続き生徒に寄り添った支援を進めていただきたい。
	4 対外的な行事等に積極的に参加するよう支援していますか。	⑤ 部活動の大会や地区体育大会、各種検定等に積極的に参加している生徒が60%以上いる。	・各部活動の日常活動を支援し、対外的な大会に積極的に参加するように生徒を励ます。 ・英語検定、漢字検定等を受検する機会を設ける。	B	B	B	○対外的な行事への参加をさらに促し、社会性を身に付ける重要性を理解させる。また、授業での指導を通して、英語検定等の受検を生徒に呼びかけた。部活動については、加入率が低いので、まずは部員を増やし下級生を中心に恒常的な活動を促していく。検定試験についても教科指導の中でも多くの生徒に受検を呼びかけていく。	○クラスの人間関係の改善に引きつづき注力していただければと思います。高校を楽しいと思ってもらえるような活動を引き続きお願い致します。
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	5 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑥ 生徒の実態を踏まえて、習熟度に応じた指導を実施し、学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が70%以上いる。	・生徒の習熟度や諸事情に応じた個別的な指導を心掛け、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を図る。 ・漢字・計算ドリル等の補助教材を作成して、反復・継続的指導を行う。	B	B	B	○生徒個々の特性に配慮した、補習を含む個別指導・対話的学習などを積極的に行った。近年学力差がより大きくなってきたことを踏まえ、上位者、下位者それぞれに個別の指導を可能な範囲で今まで通り進めていく。下位者については従来より早期から取り組み、学習障害が疑われる場合には通級制度を利用した。来年度も、更にきめ細かな対応をしていく。	○評価結果から日頃から生徒一人一人の実態に寄り添った指導が進められている様子がうかがえる。健康で規則正しい生活の項目がC評価となっているが、方策で示されているように、家庭との連携を密に図っていくことが大切であると考える。時々、生徒の学習上の成果や頑張ったこと等のプラス面を見つけて褒め、家庭にも知らせて共有するなど、学校と家庭のよりよい関係を築き、ともに生徒を見守り励まし育てる雰囲気づくりが大切であると考える。
	6 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑦ 漢字テストを1年間に6回実施し、正解率7割以上の生徒が60%以上いる。	・国語及びLHR活動の時間を使い、全学年で社会人に必要な漢字の習得に取り組む。	B		B	○昨年に比べ、学校での人間関係のトラブルも減少し、学習全体への影響も少なくなり、漢字テストへの取り組み状況も改善した。様々な教科での活動を通じて漢字習得の重要性に気づかせ、更に多くの生徒が積極的に学習に取り組むように促す。	○中学校段階で定時制を希望する生徒が増えてきていると感じる。これまで以上に中学校との連携を図り、定時制の魅力等を発進していくとよいのではないかな。
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	7 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧ 適切な指導が行えるように、毎日の打合せや休み時間等に、生徒に関する情報交換を行い職員間の連携を図る。	・生徒指導上の重要な情報は、その都度全職員が共有する。 ・生徒のよい変化を特に注視し、職員で情報を共有し、その他の場面でも活かせるよう支援する。	A		A	○生徒の状況をよく観察し、定期的に情報共有会議を開催して、生徒の様々な問題を一人で抱えず、全職員の共通認識の元で組織的に指導に当たるようにした。今後も、SCや養護教諭（非常勤）とも情報共有を綿密にし、より多面から生徒を支えられるよう工夫していく。今年度、SSW（スクールソーシャルワーカー）を活用した。	○様々な事情や課題を抱えている生徒が多い中、全体的に評価が高い、個に応じた指導をしている。 ・ⅠⅡから、夜間に行われる授業等、生徒の生活環境や学力等の実態、様々なことを考慮しながら授業を進めている。 ・Ⅲから、生徒の学校生活の充実のために、個々への対応や人間関係作りに努めている。学校に足が向かない生徒がいることも現状である。粘り強い指導をお願いします。 ・ⅣVの評価が高いことは、学校の魅力に直結することとよいと思う。 ・Ⅵから、デジタル化の推進が高評価であることも、これからの社会では重要である。進化に対応することやそれに伴う課題に適切に対応するための危機管理も重要だと思う。
	8 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑨ いじめの未然防止、早期発見及び早期対応に努め、解消率が100%である。	・SHRや授業、部活動等あらゆる機会において生徒の様子を観察し、話の中からいじめの兆候をつかみ、対応する。	A	B	A	○授業中の生徒のやりとりなども含めて学校生活を細かく観察し、気になる言動があれば、職員間で情報共有してきめ細やかな指導を行った。今後についてもSNS上や教員から見えない部分でいじめが発生することもあるので、アンケートを実施し、生徒がいつでも相談しやすい関係性を構築し、外部機関も積極的に紹介する。	○具体的な数値項目についての達成状況が一覧表だけでは不明である。達成度の説明がないので詳細はわからないが、達成度C以下に関しては来年度に向けた具体的な取り組みを記載した方が良いと感じた。
	9 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑩ 出席状況良好の者の数が80%以上である。	・個々の事情を理解し、個人それぞれにあった1日の過ごし方について一緒に考えていく。 ・家庭との連携を密にし、家庭においても指導をしてもらう。	C		C	○欠席等の場合、家庭と必ず連絡を取り、特に生活習慣や健康管理についての情報を共有した。欠席数は多くないが、遅刻早退、欠課が多いことが課題である。クラスの人間関係を良好にし、登校しやすい雰囲気をつくるとともに、個々の悩みの早期解決に向けて支援する。	○Ⅰについて、定時制には、学習環境が整わず、基礎学力の補填のために、小学校、中学校段階の指導を要する者たちもいる。個々をまず受け入れて、ゆっくりでいい、相談しやすい居場所や学び直す場としての学校を安心できる場として実感させ続ける必要がある。少人数教育の実践の場としても、生徒を再び自信を持たせて社会や上級学校に送り出すのにも定時制課程は有効な場だと思う。 ・Ⅱについて、教師が指導能力を磨かぬ限り生徒の力を伸ばすことはできない。「確かな学力」をつけさせるには、適切な指導の力を常時磨いていればこそと思う。 ・Ⅲについて、唯一「C」評価がある、生徒の出席状況や規則的な生活習慣の未確立については、最大の課題である。 ・Ⅳについて、このまま生徒が主体的に考えて動く体制を継続してほしいと願う。 ・Ⅴについて、オープンスクールや自校訪問で生徒が定時制にきて学力が伸びたこと、社会性が培われたことをもってアピールすべきだと思う。 ・Ⅵについて、教職員のICT活用は高評価で評価するが、授業では教師間にまだ技術の温度差があるようだ。あくまで、ものを読み、深く考え、まとめる記述力を培ってこそその学力向上である。
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	10 計画的な指導を行っていますか。	⑪ 上級学年の生徒を中心に、進路を考える機会を年3回以上設ける。 ⑫ 生徒の進路希望について、理解している保護者が60%以上いる。	・上級学年を中心に進路に関する生徒個別面談を実施する。 ・進路に関する最新情報を入手し提供できるようにしておく。 ・外部講師等による、進学や就職についての講演を実施する。 ・「定時制便り」を通して保護者や地域、雇用主等に、学校の状況や生徒の活動について理解を深めてもらう。	A		A	○進路講演会、学校説明会（進路ガイダンス）の開催時期や内容を見直すことで、生徒のニーズに合わせることができた。個々の進路希望に合わせて、企業や大学、専門学校にガイダンスをお願いしたり、進路講演会に卒業生を招へいするなどして、より新しい情報を得るとともに、卒業生との交流も行った。来年度も継続していく。	
				A	B	A	○生徒の進路希望について保護者面談等を通じて確認し、生徒の支援の仕方について共通理解を図った。また、その内容を進路講演会、学校説明会（進路ガイダンス）などへの講演内容に反映させた。次年度も継続していく。	
	11 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑬ 在校生の就業率が50%以上である。（アルバイトを含む）	・様々な学校行事で、地域の外部講師を招聘する。	A		A	就職・進路学習を進めるとともに社会との関係を構築するため、可能な範囲で就労体験（アルバイト等）を積極的に勧めた。昨年に続き、低学年のうちから積極的に就業する生徒が増えた。さらに大半が不登校経験者であることに留意しながらも、社会と積極的に関われるよう指導を進める。	
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	12 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑭ オープンスクールや中学校訪問による学校説明、案内等を年3回以上行う。 ⑮ 家庭や地域社会に情報を発信するため「定時制便り」を年6回以上発行する。	・オープンスクールや各中学校への訪問を通して、本校定時制の良さをアピールする。 ・「定時制便り」を通して保護者や地域、雇用主等に、学校の状況や生徒の活動について理解を深めてもらう。	A		A	○中学校教員や保護者などに定時制の魅力进行びアールし、理解を得るとともに、在籍生徒の学校での様子を伝えることなどを通して、本校定時制への信頼を得るよう努めた。今後も積極的に実施していく。	
				A		A	○学校行事に限らず、学習活動の成果など、様々な面から生徒の活躍が一目でわかるよう、写真を多く掲載した紙面構成にした。昨年度と同様、タイムリーに「定時制便り」を発行し、HPにも掲載した結果、生徒保護者からの反応も格段に良くなったので、この状況を維持していく。	
Ⅵ 教育デジタル化に努めていますか。	13 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑯ ICT機器を活用した授業を行った教員が100%である。	・各自が効果的な使用法を研究し、授業公開や校内研修等の機会を利用して成果を共有する。	B	B	B	○授業では、それぞれの教員が様々なICT機器を使用しているが、生徒が一人一台端末を活用しながらの授業についても実施するよう促した。授業でのクロームブックの利用については、まだ教員間で温度差があるので、今後も活用を積極的に進めていく。	
	14 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑰ ICT機器を活用して成績処理等を行った教員が100%である。	・全職員がスクールネットを使用して成績処理や指導要録・通知表等の作成をすることで、業務の効率化を進める。	A		A	○全職員がスクールネットを使用して成績処理や通知表・調査書等の作成をしており、各自が利用方法についてさらに熟達できるようした。次年度はスクールネットも各自でログインできるようにするので、各自が利用方法についてさらに熟知できるようにする。	
※各学校で必要に応じて評価対象を加える。								